

検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成28年10月号 目次

【トピックス】

平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)	1
残留農薬検査(その2)	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月	5
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	9
---------------------	---

平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成28年7月から9月の種類同定検査件数は、4件でした。内訳は昆虫類3件(コウチュウ目2件、ハチ目1件)、その他の節足動物1件(クモ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、体長)	同定結果	生態・その他
ビルの1階(半地下部分)に虫が大量発生している	 <p>成虫、黒褐色、約12mm</p>	オオホシボシゴミムシ (コウチュウ目)	成虫は4~11月ごろに出現する。落ち葉やゴミ、石の下などに生息する。普通種で日本に広く分布する。
家の中に多数の虫がみられる	 <p>成虫、赤褐色、2.5mm</p>	アズキゾウムシ (コウチュウ目)	成虫は貯蔵中のアズキの表面に産卵する。幼虫は豆の中に食い入って成長する。アズキの他に、ササゲ、エンドウなども食害する。
夏に大量の羽虫が屋内に侵入する	 <p>有翅虫(雄)、黄褐色、約2mm</p>	フタフシアリ亜科の一種(ハチ目)	アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。雄成虫は飛行を終えた後に、灯火に誘引され、多くの個体が窓際に飛来して家屋内に侵入し、不快害虫となることが多い。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、体長)	同定結果	生態・その他
エアコン室外機側面にクモが営巣していた	 成虫(雌)、灰褐色、9mm	ハイイロゴケグモの雌成虫および卵囊(クモ目)	成虫の体は褐色または灰褐色で個体差がある。腹部背面に4個の白点がある。腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。
	 成虫(腹面)、砂時計型の赤い斑紋	 卵囊、乳白色、約10mm <small>こんぺいとう</small> 金平糖状	

セアカゴケグモやハイイロゴケグモに気を付けましょう!!

—ゴケグモ類を見つけたら、決して素手では触らないでください!—



セアカゴケグモやハイイロゴケグモは、外来種で、メスのみ毒をもちます。巣はベンチの下や側溝の蓋の裏側、ガードレールの支柱付近など、地面に近く、直射日光が当たらない場所に造られます。

咬まれると激しい痛みや腫れを生じることがあります。重症化することは少ないですが、万一激しい痛み、発汗、発熱などが現れた場合には、医療機関で診察を受けてください。



セアカゴケグモ



ゴケグモ類を発見した場合には、お住まいの区の福祉保健センター生活衛生課までご連絡ください。

残留農薬検査(その2)

微量汚染物担当では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成28年7月及び8月に食品専門監視班が搬入した農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

7月に搬入されたトマト(4検体)、こまつな及びなす(各3検体)、キャベツ、きゅうり、じゃがいも、とうもろこし及びにんじん(各1検体)、8月に搬入されたこまつな(5検体)、なす(2検体)、にがうり、日本なし及びぶどう(各1検体)の計25検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。トマト、なす、日本なし、ぶどう各1検体及びこまつな3検体から計7種類9項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H28年7月～H28年8月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
キャベツ	横浜市	1	0			
きゅうり	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	8	1	イミダクロプリド	0.02	5
				2	テフルトリン	0.01、0.01
じゃがいも	横浜市	1	0			
とうもろこし	横浜市	1	0			
トマト	横浜市	4	1	チアクロプリド	0.03	1
なす	横浜市	5	1	イミダクロプリド	0.05	2
にがうり	横浜市	1	0			
日本なし	横浜市	1	1	クロルフェナピル	0.11	1
				フェンプロパトリン	0.27	5
				フルバリネート	0.01	2.0
にんじん	横浜市	1	0			
ぶどう	横浜市	1	1	アセタミプリド	0.04	5

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出					農薬名	検出 限界 (ppm)	検出				
		A* ¹	B* ¹	C* ¹	D* ¹	E* ¹			A	B	C	D	E
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	- ²	○ ²	-	-	-	エトリムホス	0.01	○	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和 ³)	0.005	○	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	-	-	○	-
EPN	0.01	○	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	-	○	-	-
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	エンドリン	0.005	○	-	○	-	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○
アジンホスメチル	0.01	-	-	-	-	○	オキシカルボキシ	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	オリザリン	0.01	○	-	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	カズサホス	0.01	○	○	○	○	○
アニロホス	0.01	○	○	○	○	-	カフェンストール	0.01	○	○	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	-
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	○	-	クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	-	○	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	-
エチオン	0.01	○	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	○	クロリダゾン	0.01	○	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C	D	E	農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C	D	E
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	-	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェンソン	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェリムゾン	0.01	-	○	-	-	-
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	○	フェンアミドン	0.01	○	○	○	○	-
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	-	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
ジウロン	0.01	○	○	○	○	-	フェントラザミド	0.01	○	○	○	○	-
ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	-	○	○	-
ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	-	○	○	○
ジコホール	0.01	-	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	-	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	-	○	○	-	○	ブタミホス	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	-	○	○	○	フラメピル	0.01	○	○	○	○	-
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	-	○	フルシトリネート	0.01	○	-	○	○	-
シペルメトリン	0.01	○	-	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	-	○	○	○
ジメチリモール	0.01	○	-	-	○	○	フルフェナセット	0.01	○	○	○	○	-
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	-	フルフェノクスロン	0.01	-	○	○	○	○
スルプロホス	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	-	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	-	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	-	-	-	-
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサフルムロン	0.01	-	○	-	-	-
テトラジホン	0.01	○	○	○	○	-	ヘキシチアゾクス	0.01	○	-	-	-	-
テブチウロン	0.01	○	○	○	○	-	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	-	○	-	-	-
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	○	-	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○
トリフルムロン	0.01	-	○	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	-	○	-	-	-
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	-	○	○	-	○
ノバルロン	0.01	○	-	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	-
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	メタバズチアズロン	0.01	○	○	○	○	○
ハルフェンプロックス	0.01	○	-	-	-	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	メビンホス	0.01	○	○	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	-	○	-	-	-	モノリニューロン	0.01	○	○	○	○	-
ピラゾリネート	0.01	-	-	-	○	○	ラクトフェン	0.01	-	○	○	-	○
ピリフタリド	0.01	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○	○	-
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	-	○	○	○

*1 A:とうもろこし B:こまつな、トマト、にんじん C:キャベツ、きゅうり、なす、にがうり D:じゃがいも
E:日本なし、ぶどう

*2 ○:実施、-:実施せず

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- **RSウイルス感染症が急激かつ大幅に増加しています。**
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- ヘルパンギーナの流行警報が解除されました。

全数把握の対象

【9月期に報告された全数把握疾患】

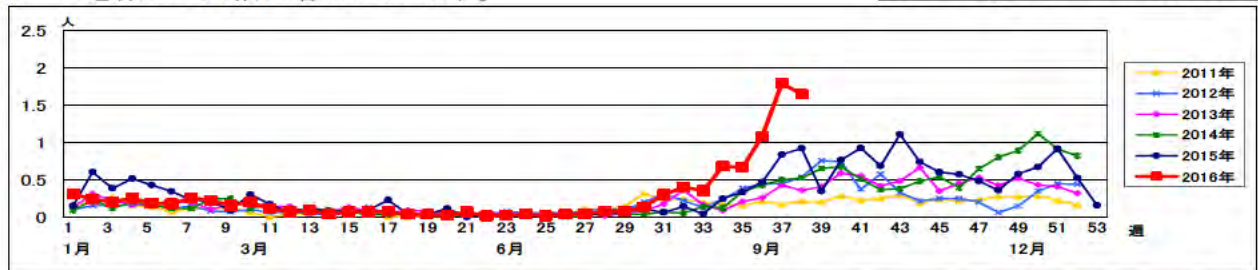
腸管出血性大腸菌感染症	23件	急性脳炎	2件
E型肝炎	1件	クリプトスポリジウム症	1件
A型肝炎	2件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
デング熱	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	7件
アメーバ赤痢	8件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
ウイルス性肝炎(E型およびA型を除く)	1件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:23件の報告のうち(9件は無症状病原体保有者)、O157が20件、O121が2件、O不明が1件で、家族内発生事例も報告されています。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状のある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- 2 **E型肝炎**:1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 3 **A型肝炎**:2件の経口感染の報告があり、1件が国内、1件がバングラデシュでの感染と推定されています。
- 4 **デング熱**:1件の報告があり、インドでの感染と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:6件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 6 **アメーバ赤痢**:8件の報告があり、1件は国内での異性間の性的接触、2件が国内での経口感染が推定され、5件は感染経路等不明でした。
- 7 **ウイルス性肝炎(E型およびA型を除く)**:B型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:7件の報告があり、うち2件は手術部位感染、1件は医療器具等関連感染、2件は以前からの保菌と推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 9 **急性脳炎**:2件の幼児の報告がありました。
- 10 **クリプトスポリジウム症**:1件の報告があり、動物からの感染が推定されています。
- 11 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:家族性CJDの報告が1件ありました。
- 12 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:B群が1件、G群が1件報告され、創傷感染が推定されています。
- 13 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:7件の報告があり、うち3件がAIDS、3件が無症状病原体保有者、その他が1件でした。感染経路は、同性間の性的接触が4件、異性間の性的接触が2件、感染経路等不明が1件でした。
- 14 **侵襲性肺炎球菌感染症**:5件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 15 **梅毒**:18件の報告(無症状病原体保有者7件、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染経路は、性的接触が17件(異性間12件、詳細不明5件)、感染経路等不明が1件でした。
- 16 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:1件の報告があり、感染経路等不明です。

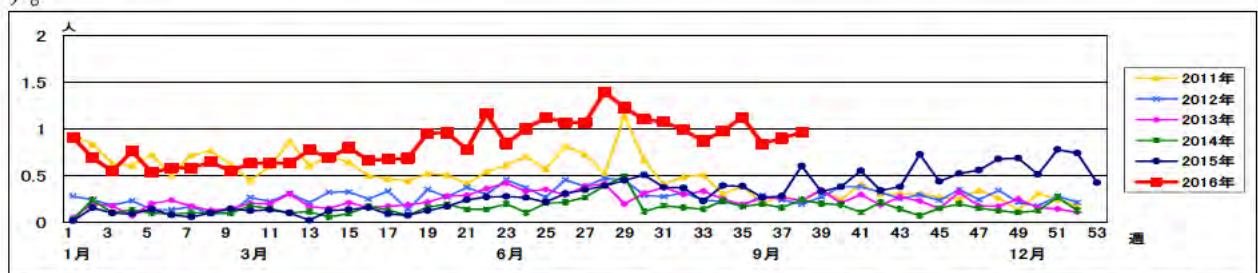
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第34週	8月22日～8月28日
第35週	8月29日～9月4日
第36週	9月5日～9月11日
第37週	9月12日～9月18日
第38週	9月19日～9月25日

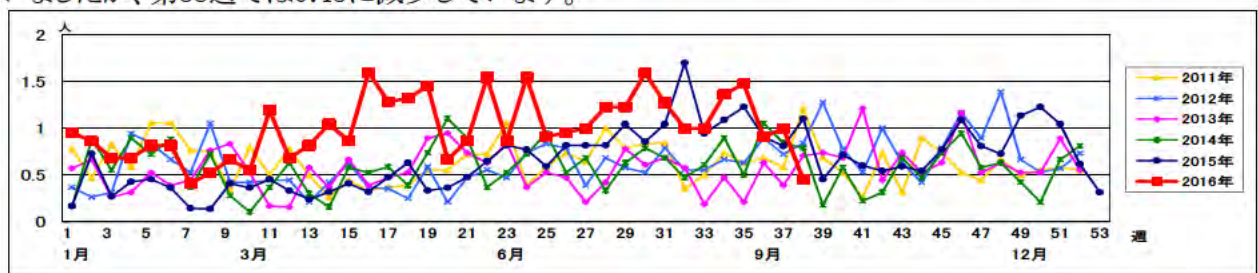
- 1 RSウイルス感染症: 第37週で定点あたり1.79、第38週で1.64と、例年に比べて急激かつ大幅に増加しています。



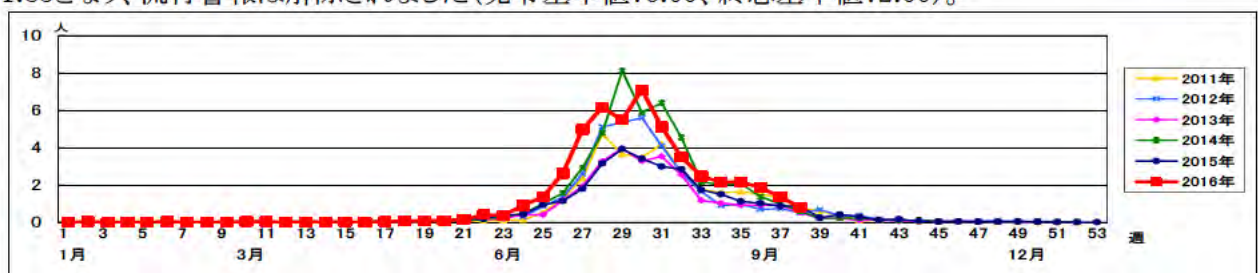
- 2 流行性耳下腺炎: 第38週で定点あたり0.96と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 3 流行性角結膜炎: 第36週で定点あたり0.90、第37週で1.00と、例年に比べて報告が多い状態が続いていましたが、第38週では0.45に減少しています。



- 4 ヘルパンギーナ: 第28週にて市全体で定点あたり6.15となり、流行警報が発令されましたが、第36週に1.85となり、流行警報は解除されました(発令基準値:6.00、終息基準値:2.00)。



- 5 性感染症: 8月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が5件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第34週1.00、第35週1.33、第36週2.33、第37週0.33、第38週0.50と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報: 8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症13件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点4件、基幹定点8件で、定点外医療機関からは6件でした。

10月7日現在、ウイルス分離4株と各種ウイルス遺伝子23件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S V 感 染 症	胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	無 菌 性 髄 膜 炎	急 性 脳 炎	発 疹 症
インフルエンザ B型ビクトリア系統			1							
パラインフルエンザ 1型	1								1	
パラインフルエンザ 3型	1			1						
RS		3		4					1	
水痘・帯状疱疹	1									
ライノ	2									
ヒトパレコ								1		1
コクサッキー A 2型	1									
コクサッキー A 4型							1			
コクサッキー A 6型						4				1
コクサッキー B 3型		1								
コクサッキー B 5型					1					
合計	1 5	1 3	1 0	0 5	1 0	0 4	0 1	0 1	0 2	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎は、小児科定点から1件、基幹定点から9件、その他が18件で、腸管出血性大腸菌（O157:H7,VT2が8件、O157:H7,VT1&2が4件、O157:H-,VT1&2が1件、O121:H19,VT2が1件、O121:H21,VT2が1件、O型別不能,VT1が2件）、サルモネラ（*S. Typhimurium*、*S. Braenderup*、*S. Manhattan*）が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から1件、基幹定点から4件、その他からが28件でした。B群およびG群溶血性レンサ球菌は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は2株とも *Legionella pneumophila* 1群、インフルエンザ菌は血清型別不能でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

感染性胃腸炎							
検査年月		9月			2016年1月～9月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		1	9	18	1	89	73
菌種名							
赤痢菌						1	2
腸管出血性大腸菌			1	16		7	49
腸管毒素原性大腸菌						2	
腸管凝集性大腸菌						2	
チフス菌						2	
サルモネラ		1	2		1	22	2
カンピロバクター							1
黄色ブドウ球菌						1	
NAGビブリオ				1			1
不検出		0	6	1	0	52	18
その他の感染症							
検査年月		9月			2016年1月～9月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		1	4	28	28	42	331
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1	1		4		2
		T3			1		
		T4			2		
		T6			1		
		T12			3		1
		型別不能			12		2
B群溶血性レンサ球菌				1			2
G群溶血性レンサ球菌				1		2	5
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	
バンコマイシン耐性腸球菌						1	2
レジオネラ属菌				2			3
インフルエンザ菌				1			6
肺炎球菌						5	38
黄色ブドウ球菌					1		
結核菌				11			186
百日咳菌						2	
ボツリヌス菌							1
その他			2	8		14	46
不検出		0	2	4	4	14	37

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成28年9月)

平成28年9月の総アクセス数は、92,076件でした。主な内訳は、感染症情報センター67.9%、保健情報15.3%、食品衛生4.3%、検査情報月報2.6%、生活環境衛生2.3%、薬事0.6%でした。

(2) アクセス順位 (平成28年9月)

9月のアクセス順位(表1)

表1 平成28年9月 アクセス順位

は、第1位が「大麻(マリファナ)について」、第2位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第3位が「横浜市感染症情報センター」でした。

9月の総アクセス数は、前月に比べ約9%増加しました。アクセス順位を見ると、感染症関連の項目が多数を占めています。先月と同様、1位の大麻(マリファナ)については、有名人による

大麻等の使用が、報道等で話題となり、アクセス数の増加に繋がったと考えます。2位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。3位は、横浜市感染症情報センターで、感染症に対する関心の高さがうかがえます。

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	10,346
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,273
3	横浜市感染症情報センター	3,199
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,591
5	衛生研究所トップページ	2,119
6	EBウイルスと伝染性単核症について	1,903
7	麻疹(はしか)について	1,882
8	チメロサルとワクチンについて	1,639
9	ライノウイルスについて	1,611
10	横浜市感染症発生状況(全数情報)	1,563

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成28年9月）

平成28年9月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 平成28年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
CDディスクの記憶媒体の反対側に塗装された顔料から異臭が発生	1	感染症・疫学情報課
アメーバ性肝膿瘍・アメーバ性大腸炎について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成28年9月）

平成28年9月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表3)。

表3 平成28年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 1日	ダニ媒介脳炎について	更新
9月 2日	平成28年 熱中症情報	更新
9月 9日	横浜市国保加入者の特定保健指導の効果について	掲載
9月15日	ヒトメタニューモウイルス感染症について	掲載
9月16日	平成28年 熱中症情報	更新
9月28日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成28年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】